縄瀬保育園
おおむたこども園
谷頭こども園

社協3園 No.3 スピリット

令和８年９月８日
縄瀬保育園
竹之下　良子

残暑が厳しく暑い日が続いております。園では、中(室内)と外(庭)の遊びのバランスをとりながら、夏に特化した活動を展開しています。

さて、№2 では、0･1･2歳児の具体的な保育のやり方である、『育児担当制』についてお話ししました。今回は、3･4･5 歳児の『縦割りクラス編成によるこども主体の教育･保育』の考え方やその方法についてご説明します。

★3･4･5 歳児縦割りクラス編成の特徴

２歳児から３歳児クラスに進級するタイミングで『縦割り(異年齢混合)クラス』に入ります。１クラスは、３歳児、４歳児、５歳児のそれぞれの数名で編成され、３年間を同じクラスで過ごします。兄弟姉妹も同じクラスです。友だち関係なども考慮してクラスの構成を決めます。同じクラスで３年間過ごすことは、その遊びや生活の場に愛着が高まり、互いに兄弟のように育ち、こども同士の絆が深まることを実感しているところです。

★縦割り(異年齢混合)クラスで育つものや期待されること

①こどもの主体性や自発的な遊びが展開しやすいこと

「こまを回わせるようになりたい」、「冒険レンジャーに登ってみたい」などの憧れから、年上のこどもを真似て挑戦します。
あやとりや編み物、ラＱや積み木で作る構造物などあらゆる高度な遊びの発信も、年上のこどもからなのです。
年上の友だちのすることに刺激を受け、年上の友だちのすること全てが、自発的に遊ぶきっかけになっていきます。

②多様性の容認

クラスの中には年齢も違えば体格の違い、消極的なこどもや敏感なこどもなど性格もそれぞれです。発達の違いもあり、療育のために並行通園をしているこどももいます。また、近年は外国にルーツを持つこどもも増えてきました。縦割りクラスで過ごすことは、それらの違いを自然に感じ、何となく受け入れられる土壌があるように感じます。
いろいろな友だちがいるから『自分は自分で良いんだ』の考え方も同時に培われていきます。

③誰でもリーダーになれる

カードゲームやトランプなどのルールや数え方など、自分の得意なことを、年下の友だちに教えながら遊びを進められることは、自尊心を強く感じ、自信になっています。
縦割りクラスでは、同年齢の中では難しくても、年下の友だちの中では自然に誰でもリーダーになれる機会があります。

④一人っ子も真ん中っ子も末っ子もクラスの中では、お兄さんお姉さんになれる

家庭では、生まれた順によって役割や性格などが形成されていきます。縦割りクラスでは、家族の中の状況に関係なく、みんなが、お兄さんお姉さんになれます。ひとりっ子もきょうだいのような存在がいる３年間を過ごすことができます。家では末っ子でも、園では泣いている友だちを慰めたり、着替えを手伝ったり、年下に頼られる経験が日常的にあり「お兄さん、お姉さんなんだ」と自覚し、思いやりの心が芽生えます。長子のこどもも、２年間、甘えられる経験をすることになります。

⑤年上の友だちに助けてもらい、いたわってもらった経験から立場が変わった時に、年下の友だちに同じように接することができる

新年度スタートと同時に、進級してきた３歳児に対して、かいがいしくお世話をする姿がみられます。
年上の友だちに甘えたり、頼ったりする経験をたくさん重ねたこどもは、同じように年下の友だちに優しく接することができます。時には、「自分でやってみて」と良いタイミングで突き放されることもあります。まるで、小さなお母さん、保育士さんみたいで、微笑ましいです。

⑥生活や遊びの仕方の伝承ができる

各クラスの遊びのコーナーにはルールがあり、たくさんの玩具の片付け方も年上の友だちが手本になっています。大人が指示をしたり、一斉に声を掛けたりしなくても、その方法が縦割りクラスの中で受け継がれていきます。遊びのスキルややり方も、お兄さんお姉さんの姿を見て、コツを掴んだり、時には直接教えてもらったりしながら自分のものにしていきます。卒園する５歳児は「後は、頼んだからね」と声をかけ、残るこども達は、進級することに期待を含らませるのです。それぞれの縦割りクラスごとに存在する生活や遊びの技術や秩序は、こうして継承されていきます。

★なぜ縦割りクラスなのか？

学校生活において、こども達は否応も無しに同じ年齢同士で 10 年以上を過ごします。しかし、大人社会は多様な人々で構成される縦社会。様々な秩序や規範の中で生活することになります。これからの人生を進んでいくこども達の「生きる力」の最も根本となるものが培われるのが、こども園(保育園)時代です。クラスの中にいろいろな友達がいて共に育ちあいながら、その違いに気づき、それを認め、尊重できるこどもになって欲しい思いがあります。だから社協３園は、『縦割り(異年齢混合)』クラスなのです！！

*国は保育の質を高める為に、平成 12 年の改訂の保育所保育指針では、異年齢のこども達の活動に関して言及しています。
また、20 年の改定では、異年齢間での関わりは、同年齢との関わりとは異なる相互作用をこども達に与える」と重要性を変わらず説いています。

おおむたこども園は平成 29 年から谷頭こども園は 30 年から(縄瀬保育園はそれ以前からこどもの数が少ないため必然的に縦割りクラス)異年齢混合の縦割りクラス編成の教育・保育を行ってきました。この７年の間に、こども同士の遊びのスキルや生活の仕方が、確実に継承されてきました。大人には見えにくい、こども間の秩序が形成され、保育士が主導しなくともこども達の主体的な遊びや生活が繰り広げられています。3･4･5 歳児の縦割りクラスは、こども同士で育ちあうのに適していると自負しております。

もちろん、それぞれの年齢ごとの単独活動も有ります。特に最終学年の５歳児においては、社会見学やこども会議など自己を発揮できる活動に重きを置いています。

３歳から５歳を過ごす３年間が、こども達自らの取捨選択を尊重できる教育・保育となるように精進してまいります。

次回は、『こどもが主体の教育･保育』についてお話しします。